

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-323067

(43) 公開日 平成8年(1996)12月10日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
B 2 6 B	21/40		B 2 6 B	A
	21/52		21/52	A

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平7-158437

(22) 出願日 平成7年(1995)6月1日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 馬部 健

神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会

社資生堂第1リサーチセンター内

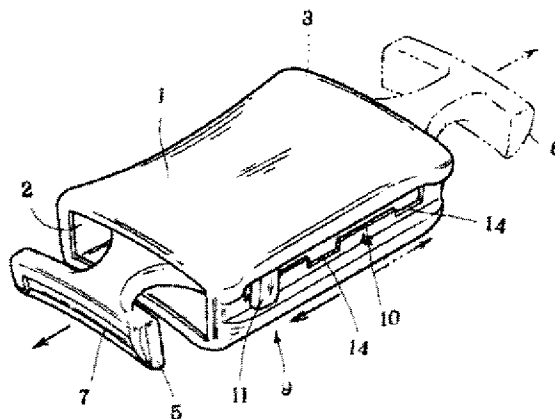
(74) 代理人 弁理士 竹内 裕

(54) 【発明の名称】 携帯用かみそり

(57) 【要約】

【目的】 使用性を損なうことなく携帯性を高くできる安全性に優れた携帯用かみそりを提供する。

【構成】 両端に開口を設けた扁平な筒状をなすホルダの内部に摺動可能に收容したスライダの両端に突設された覆うヘッド部と、該両ヘッド部に取り付けた剃刃と、前記両ヘッド部を開口内に没入させた格納位置と任意の一方のヘッド部を開口から突出させた使用位置にスライダを切換移動させる操作手段を備えたことを特徴とする携帯用かみそり。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 両端に開口を設けた扁平な筒状をなすホルダの内部に摺動可能に収容したスライダの両端に突設された覆うヘッド部と、該両ヘッド部に取り付けた剃刃と、前記両ヘッド部を開口内に没入させた格納位置と任意の一方のヘッド部を開口から突出させた使用位置にスライダを切換移動させる操作手段を備えたことを特徴とする携帯用かみそり。

【請求項2】 ホルダが弓形に彎曲した形状を有していることを特徴とする請求項(1)記載の携帯用かみそり。

【請求項3】 ホルダが略く字状に屈曲した形状を有していることを特徴とする請求項(1)記載の携帯用かみそり。

【請求項4】 少なくとも一方のヘッド部に剃刃が凹入彎曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)(2)又は(3)記載の携帯用かみそり。

【請求項5】 少なくとも一方のヘッド部に剃刃が膨出彎曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)(2)又は(3)記載の携帯用かみそり。

【請求項6】 一方のヘッド部に剃刃が凹入彎曲して取り付けられていることを特徴とする請求項(1)(2)又は(3)記載の携帯用かみそり。

【請求項7】 剃刃が交換自在であることを特徴とする請求項(1)、(4)(5)又は(6)記載の携帯用かみそり。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は携帯用のかみそりに係り、特に、使用性を損なうことなく安全性および携帯性を高くした携帯用のかみそりに関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】従来の携帯用かみそりとしては、例えば図19に示したように板状をなすハンドルAの先端部に剃刃Bを挟み込み保持させたもの、図20に示したようにT字状をなすハンドルAの先端に設けた刃台Cに剃刃Bを取り付けたもの、図21に示したように刃台Cに形成された取付面を凸状に膨出彎曲させることにより、剃刃Bを膨出彎曲させた状態で保持させて身体の凹部などの剃毛性を高くしたたもの、あるいは、図22に示したようにハンドルAのグリップ部Dを刃台Cの幅と同程度まで広くして使用時におけるハンドルAの操作性を高くするようにしたものがある。

【0003】しかしながら、これらの従来品はいずれもハンドルが一体型であるために、使用時の操作性を高くすべくハンドルAの全長を大きくすると携帯性が損なわれるという不具合があった。また、これらのものはいずれも刃台Cに取り付けた剃刃Bが露出したままであるために、従来では例えば図23に示したように刃台Cとともに剃刃Bの刃縁を覆うキャップEを取り付けて不使用時の安全性を確保していた。Fは剃刃Bを刃台Cに取り付ける傘である。しかしながら、このように刃台Cと

もに剃刃Bの刃縁を覆うキャップEを取り付けて不使用時の安全性を確保するようにしたものにおいては、キャップEの着脱を行う必要があるため面倒であり、しかも、キャップEの着脱時に剃刃Bの近傍をさわってしまうために、ガード付きの剃刃を取り付けている場合においても手を切る可能性があった。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記実情に鑑みてなされたものであって、使用性を損なうことなく携帯性を高くできる安全性に優れた携帯用かみそりを提供することを課題としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために本発明は、両端に開口を設けた扁平な筒状をなすホルダの内部にスライダを摺動可能に収容し、前記スライダの両端に突設したヘッド部で前記開口を覆っている。また、前記両ヘッド部を開口内に没入させた格納位置と任意の一方のヘッド部を開口から突出させた使用位置にスライダを切換移動させる操作手段を設けている。

【0006】又、ホルダが弓形に彎曲した形状を有していることを特徴とする。

【0007】更に、ホルダが略く字状に屈曲した形状を有していることを特徴とする。

【0008】更に、少なくとも一方のヘッド部に剃刃が凹入彎曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0009】更に、少なくとも一方のヘッド部に剃刃が膨出彎曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0010】更に、一方のヘッド部に剃刃が凹入彎曲して取り付けられていることを特徴とする。

【0011】更に、剃刃が交換自在であることを特徴とする。

## 【0012】

【作用】上記のように構成した携帯用かみそりにおいて、かみそりを使用しない時はスライダを格納位置に摺動保持させて両ヘッド部をそれぞれホルダの開口内に没入させることにより、ホルダでヘッド部を被覆して安全性を確保している。

【0014】一方、かみそりを使用する時は使用部所の形状に適合する側のヘッド部が突出する使用位置までスライダを移動させる。すなわち、腕あるいは脚のように身体の出っ張り部位に使用しようとする場合は、剃刃を凹入彎曲させて取り付けられているヘッド部が突出する位置にスライダを移動させて他方のヘッド部をホルダ内に大きく没入させるが、脇などのように身体の出っ張り部位に使用する場合は、スライダを逆の方向に移動させて剃刃を膨出彎曲させて取り付けられているヘッド部を大きく突出させて他方のヘッド部をホルダ内に大きく没入させる。

【0015】このように、かみそりを使用しようとする部位の形状に応じてスライダを移動させて任意の一方のヘッド部のみをホルダの開口から突出させて他方のヘッ

下部をホルダ内に大きく没入させるようにしているために、携帯用かみそりの使用性を損なうことなく使用部位を多様化することができる。なお、スライダを格納位置まで移動させた場合は両ヘッド部とともにホルダの開口内に没入される。従って、格別なキャップなどを設けて携帯用かみそりの安全性を確保する必要がない。

【0016】又、ホルダを弓形に湾曲した形状若しくは略く字状に屈曲した形状とすることにより、ホルダを把持して手足やボディーのむだ毛を剃毛する際の作業性が向上する。

【0017】

【発明の効果】本発明によれば、ホルダ内でスライダを移動させることにより、使用部位の形状に適した状態で剃刃を取り付けているヘッド部のみをホルダの開口から選択的に突出させて他方のヘッド部をホルダ内に大きく没入させるようにしているために、携帯用かみそりの使用部位を多様化することができる。また、かみそりを使用しない時はスライダを格納位置に移動させて両ヘッド部をそれぞれ開口内に没入保持させることができるために、従来のようにキャップなどを設けて安全性を確保する必要がなく、携帯用かみそりの使用性および携帯性が改善される。

【0018】

【実施例】以下に本発明の実施例を図に基づいて詳細に説明する。図1は本発明に係る携帯用かみそりの一実施例の一使用態様を示す斜視図、図2は同じく不使用時の斜視図、図3は不使用状態の平面図、図4は一方のヘッド部を突出させた状態の平面図、図5は他方のヘッド部を突出させた状態の平面図、図6は図3の側面図、図7は図4の側面図、図8は図5の側面図である。

【0019】これらの図において、両端に開口(2)(3)を設けた扁平な筒状をなすホルダ(1)の内部にはスライダ(4)を摺動自在に収容している。スライダ(4)の両端には前記開口(2)(3)を覆うヘッド部(5)(6)を突設し、これらのヘッド部(5)(6)にそれぞれ剃刃(7)(8)を取り付けている。

【0020】各ヘッド部(5)(6)に取り付ける剃刃は、必ずしも異なった形状のものとする必要はなく、同一の形状の剃刃を両ヘッド部(5)(6)に設けても良いことは勿論である。又、剃刃はハンドル若しくはヘッド部と共に、或は剃刃のみを交換自在としても良い。

【0021】ここに、図中左側に位置するヘッド部(5)には剃刃(7)を凹入湾曲させて取り付けられているが、図中右側に位置するヘッド部(6)には剃刃(8)を膨出湾曲させて取り付けられている。そして、前記両ヘッド部(5)(6)を開口(2)(3)に没入させた格納位置と任意の一方のヘッド部を開口から突出させた他方のヘッド部をホルダ(1)内に大きく没入させた使用位置にスライダを切換移動させる操作手段(9)を設けている。

【0022】従って、腕あるいは脚などのような身体の

突出部位に使用する場合はスライダ(4)を図1、図4および図7に示したように剃刃(7)を凹入湾曲させて取り付け付けたヘッド部(5)をホルダ(1)の開口(2)から突出させることができる。そして、脇などのような身体の内凹部位に対しては、スライダ(4)を図中右側に移動させて図5および図8に示したように剃刃(8)を膨出湾曲させて取り付け付けたヘッド部(6)をホルダ(1)の開口(3)から大きく突出させるというように、使用部位の形状に合わせて任意のヘッド部を選択使用することができるようにしている。

10 【0023】図9は操作手段(9)の具体例を示す断面図、図10は図9に示した操作手段(9)の分解斜視図である。この具体例においては、ホルダ(1)の側面に設けたガイド溝(10)を貫通してホルダ(1)の表面に至る操作つまみ(11)をスライダ(4)に出没可能に取り付けている。

20 【0024】ガイド溝(10)は操作つまみ(11)の軸部(12)の巾より僅かに広くしている。そして、操作つまみ(11)の本体部(13)に係合する幅広の係合部(14)をガイド溝(10)の両端と略中央部分に設けることにより、操作つまみ(11)の本体部(13)を中央部分の係合部(14)に係合させると、スライダ(4)が格納位置に保持されるようにしている。

30 【0025】なお、操作つまみ(11)をガイド溝(10)に沿って移動させて本体部(13)を左右の係合部(14)に係合させると、スライダ(4)がホルダ(1)の内部を左右に移動して操作つまみ(11)の本体部(13)が左右の使用位置に係合保持される。(15)はスライダ(4)の一部を舌片状に切欠形成して構成したバネであり、操作つまみ(11)を突出付勢してその本体部(13)を係合部(14)に係合保持させている。

40 【0026】以上のように構成した携帯用かみそりにおいて、かみそりを使用しない時は図2、図3および図6に示したように操作つまみ(11)を中央部分の係合部(14)に係合保持させてスライダ(4)を格納位置に係合保持させることにより、左右のヘッド部(5)(6)とともにホルダ(1)の開口(2)(3)内に没入させてホルダ(1)でヘッド部(4)(5)を被覆して安全性を確保している。

50 【0027】一方、腕あるいは脚のように身体の出凹部位にかみそりを使用しようとする場合は、バネ(15)による付勢力に抗して操作つまみ(11)を押し込んで本体部(13)を係合部(14)から抜き出す。その後、操作つまみ(11)を押し込んだまま該操作つまみ(11)を図中左側に移動させてガイド溝(10)の左端に位置する係合部(14)まで移動させた後に、操作つまみ(11)を解放する。

【0028】すると、図1、図4および図7に示したように操作つまみ(11)の本体部(13)がバネ(15)による付勢力で突出作動して図中左側に位置する係合部に係合する。従って、この場合はスライダ(4)がホルダ(1)内の左端まで移動し、剃刃(7)を凹入湾曲させて取り付けたい

るヘッド部(5)がホルダ(1)の開口(2)から大きく突出して他方のヘッド部(6)をホルダ(1)内に大きく没入する。

【0029】逆に、脇などのように身体の内入部位に使用する場合、操作つまみ(11)を前記とは逆の方向に移動させてスライダ(4)をホルダ(1)内で右側に移動させる。すると、図5および図8に示したように剃刃(8)を膨出湾曲させて取り付けられているヘッド部(6)が開口(3)から大きく突出して他方のヘッド部(5)がホルダ(1)内に大きく没入する。

【0030】すなわち、かみそりを使用しようとする部位の形状に応じて操作つまみ(11)でスライダ(4)を移動させることにより、任意の一方のヘッド部のみをホルダ(1)の開口から突出させて他方のヘッド部をホルダ(1)内に大きく没入させるようにしているために、携帯用かみそりの使用性を損なうことなく使用部位を多様化することができる。なお、スライダ(4)を格納位置まで移動させた場合は、両ヘッド部(5)(6)がともにホルダ(1)の開口(2)(3)内に没入されるために、格別なキャップなどを設けて安全性を確保する必要がない。

【0031】図11は操作手段の変形例を示す断面図、図12は同じく操作時の断面図であり、この変形例においては円弧状に湾曲するバネ(15)をスライダ(4)の表面に設けている。従って、この変形例の場合は、バネ(15)の変形動作が円滑に行われるとともに、操作つまみ(11)の押し込み過ぎによるバネ(15)の破損を予防できる利点があるが、図13に示したようにスライダ(4)と操作つまみ(11)をバネ(15)を介して一体に成型して部品点数を削減することもできる。

【0032】図14～18はこの発明の他の変形を示し、ホルダ(1)が弓形に彎曲した形状に形成されていることを特徴とする。ホルダ(1)内に移動自在に収納されたスライダ(4)に操作つまみ(11)が取り付けられており、該操作つまみ(11)をロックが解除され、スライダ(4)の移動が自由を図15に示すように、剃刃(7)(8)を取り付けたヘッド部(5)(6)のいずれかを選択的にホルダ(1)の外へ移動させて、剃刃(7)又は(8)で剃毛を行うことが出来る。そして、この剃毛作業の際にホルダ(1)が弓形に彎曲している為、ホルダ把持が容易で確実となる。

【0033】図17、18を参照して、ホルダ(1)の対向する両側内面に3個のロック穴(16a)(16b)(16c)が形成されており、スプリング(17)で常時外方へ付勢されたロックピン(18)を該ロック穴(16)に係入することにより、スライダ(4)の移動をロックすることが出来る。ロック穴(16)は中央の収納位置と、開口端に近接した移動位置の3つの位置に形成されており、ロックピン(18)は操作つまみ(11)によりロック穴(16)に係脱自在である。

【0034】ホルダ(1)は図示のような弓形に彎曲した形状に形成するのに代って、略く字状に屈曲した形状に形成しても良い。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る携帯用かみそりの一実施例の一使用態様を示す斜視図である。

【図2】図1に示した携帯用かみそりの不使用時の斜視図である。

【図3】図1に示した携帯用かみそりの不使用状態の平面図である。

【図4】図1に示した携帯用かみそりの一方のヘッド部を突出させた状態の平面図である。

【図5】図1に示した携帯用かみそりの他方のヘッド部を突出させた状態の平面図である。

【図6】図3の側面図である。

【図7】図4の側面図である。

【図8】図5の側面図である。

【図9】操作手段の具体例を示す断面図である。

【図10】図9に示した操作手段の分解斜視図である。

【図11】操作手段の変形例を示す断面図である。

【図12】図11に示した操作手段の操作時の断面図である。

【図13】操作手段の他の変形例を示す断面図である。

【図14】一変形例を示す外観斜視図である。

【図15】同使用状態を示す斜視図である。

【図16】同分解斜視図である。

【図17】同一部を断面して平面図である。

【図18】同一部を断面した使用状態の平面図である。

【図19】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図20】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図21】かみそりの従来例を示す斜視図である。

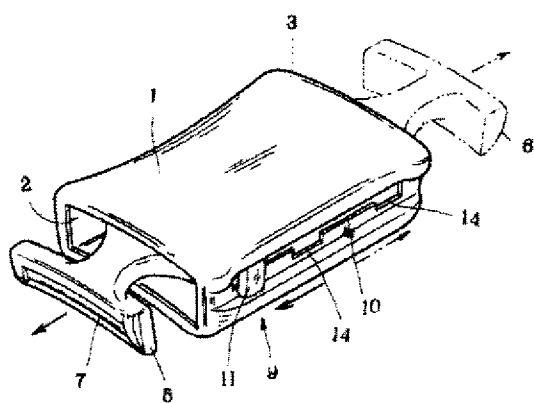
【図22】かみそりの従来例を示す斜視図である。

【図23】かみそりの従来例を示すヘッド部の断面図である。

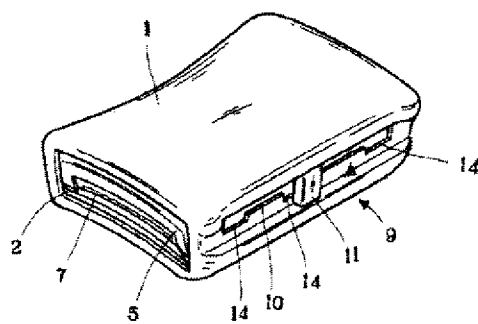
【符号の説明】

- (1) ホルダ
- (2)(3) 開口
- (4) スライダ
- (5)(6) ヘッド部
- (7)(8) 剃刃
- (9) 操作手段
- (10) ガイド溝
- (11) 操作つまみ
- (12) 軸部
- (13) 本体
- (14) 係合部
- (15) バネ

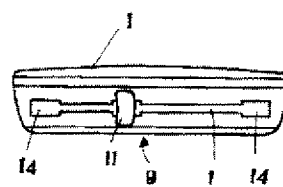
【図1】



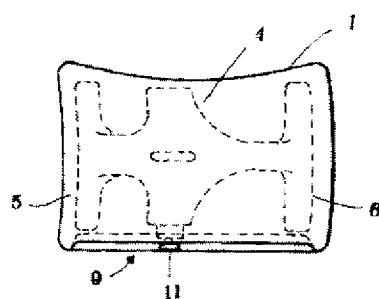
【図2】



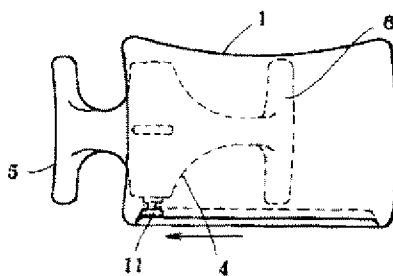
【図6】



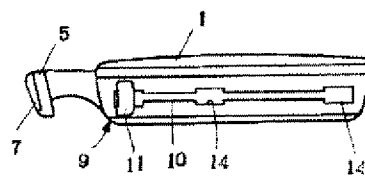
【図3】



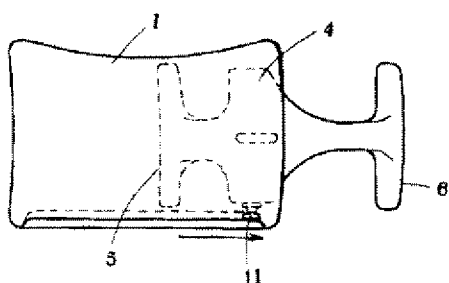
【図4】



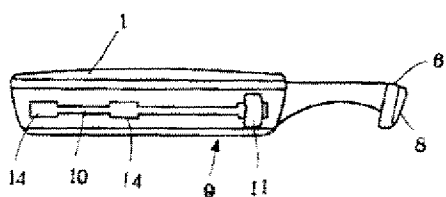
【図7】



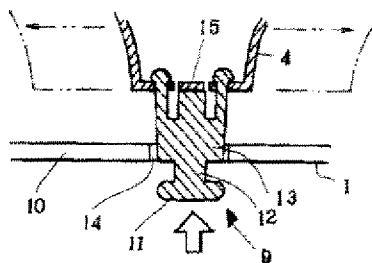
【図5】



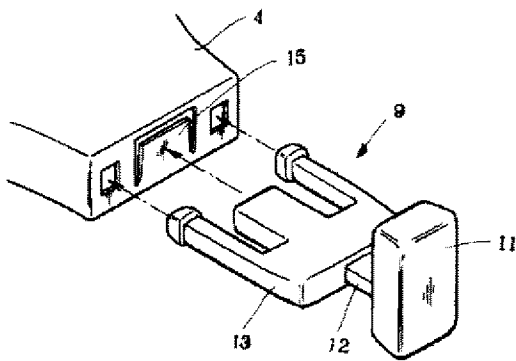
【図8】



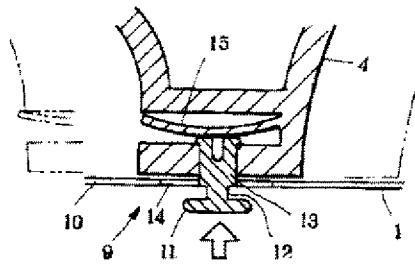
【図9】



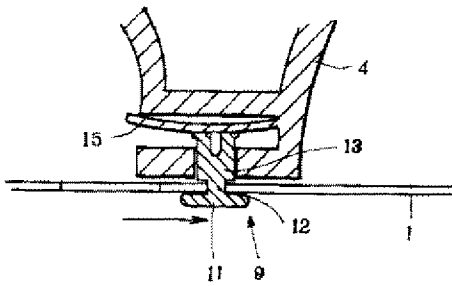
【図10】



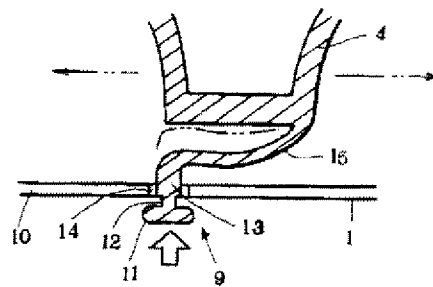
【図11】



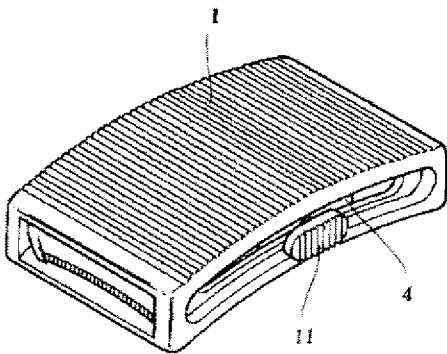
【図12】



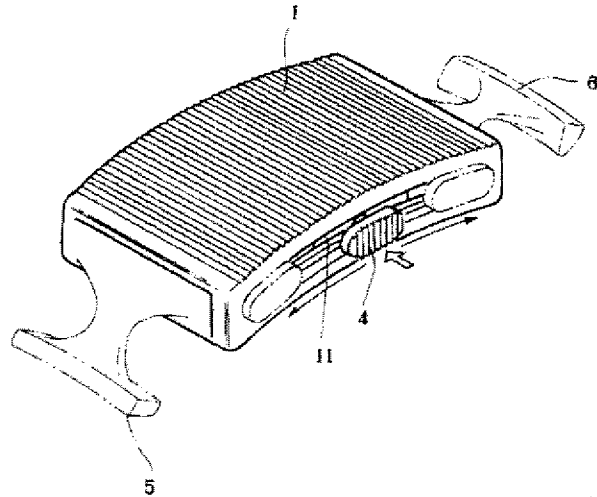
【図13】



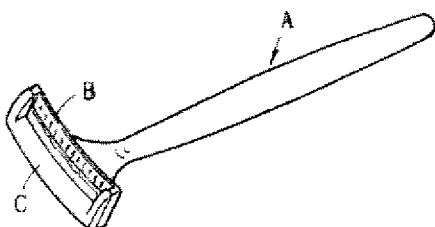
【図14】



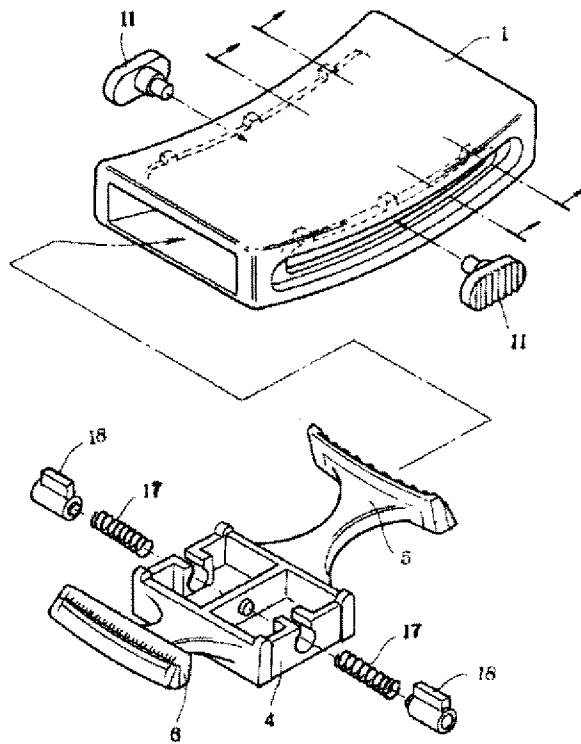
【図15】



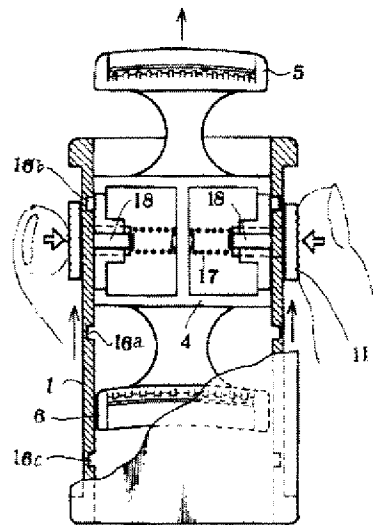
【図21】



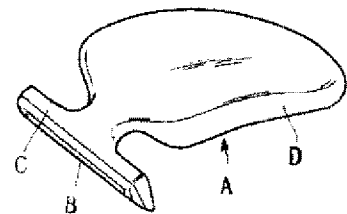
【図16】



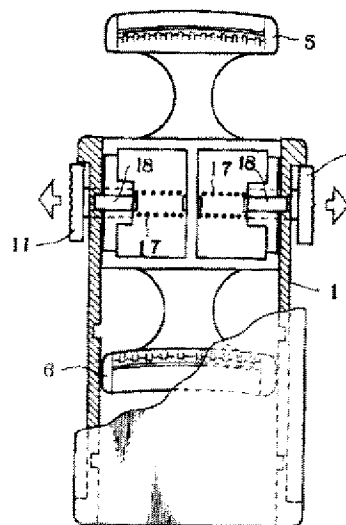
【図17】



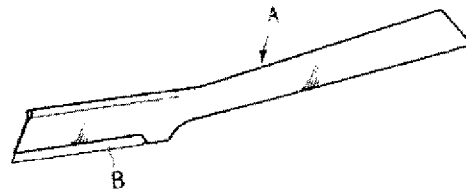
【図22】



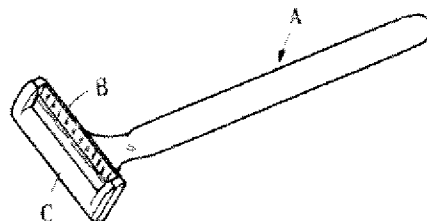
【図18】



【図19】



【図20】



【図23】

